

### 目的 (Objective)

近年、BSE、薬害、原発関連問題など、市民の科学技術リテラシーが求められる。しかし、現実の専門家vs.市民のディスカッションでは・・・  
専門家「どれだけ説明しても関心・信用が得られない」  
市民「無関心、どれだけ聞いても不安が拭えない」

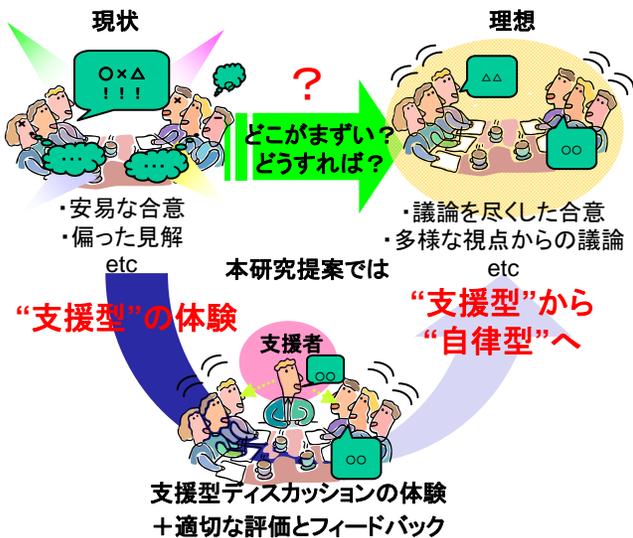
ディスカッションの評価法を確立することにより「十分な話し合いによる満足な解決」を導く。

### インパクト (Impact)

科学技術コミュニケーション、裁判員制度、教育現場など、専門家と非専門家の「話し合い」の実践現場への応用

### 本研究の目指すもの

- ・ディスカッションの効果的な支援方法
- ・“プロセス”を重視したディスカッション評価法



### ディスカッションの実践・収録

- ・大学生6名 {理系(3名), 文系(3名)} が混在} によるグループディスカッション
- ・1グループ3回のディスカッションを以下の3つの条件で実施(各3グループ)
  - ①支援なし
  - ②1回目に支援あり
  - ③2回目に支援あり
- ※ 全体で27のディスカッションを収録

収録風景



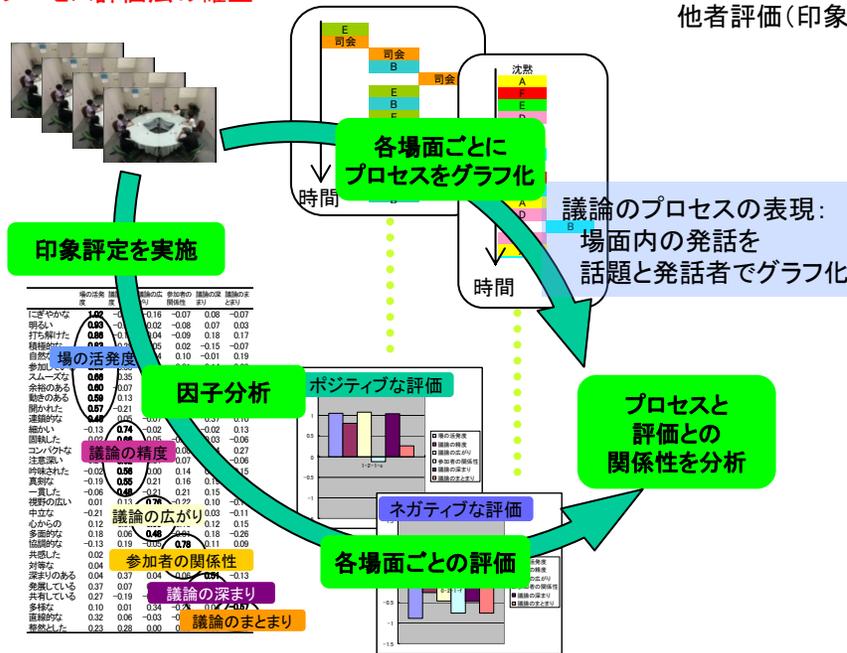
### “プロセス”評価法の探求

場面の評価と議論のプロセス間によるプロセス評価法の確立

### 支援法の探求

支援型ディスカッションの体験効果を検証  
自己評価(事後&後日アンケート)  
他者評価(印象評定)

効果的な支援方法の提案へ



### 連絡先 (Contact to)

ATR音声言語コミュニケーション研究所 音声言語処理研究室  
担当者: 水上悦雄, 鈴木佳奈, 柏岡秀紀  
電子メール: etsuo.mizukami@atr.jp URL: <http://ssl.jp/>

- チェックポイント
- ・場の活発度
  - ・話者への反応など
  - ・議論の広がり
  - ・多面的な見方など
  - ・議論の深まり
  - ・話題の掘下げなど
  - etc